

Q ふるさと納税は順調か

A 5名から17万円寄付



高橋 盛佳 議員
(新志会)



▲清潔な地域は住民力で

Q1 「ふるさと納税」はどのような状況になっているのか。

A1 ホームページに「滝沢まちづくり応援寄付金」として掲載し、本年2月末において5名の方から17万円のご寄付をいただいております。

Q2 村外在住の滝沢村出身者を通じた特産品の販売開発及び観光案内拡大への施策はどうか。

A2 現在、首都圏をはじめPRイベントでの観光パンフレットの配布、村内または近隣市町村の観光物産施設・宿泊施設・公共施設等へのパンフレットの配置、ホームページでの村の観光物産情報のPRを行っております。
また、村外在住の滝沢村出身者を始め、村を訪れたことのある方や村に縁（ゆかり）のある方は大変貴重な情報発信源であるので、観光のみならず村の魅力を広めていただくため、機会を捉えて

A3 課題としては高齢化対策と人材の育成であり、人間関係が希薄となり、活動の難しさが指摘されておりますが、班やゴミ集積場の管理の単位があったり、福祉、青少年育成などは学区単位で実践しています。
行政とは、課題により地域にあった柔軟な範囲のネットワークが構築されていると考えております。
また、自治会連合会とは、独自の取組としては3年目になります交通安全誓約書の署名活動、地域活動の充実のためテント等の備品管理、印刷機の導入を行っており、情報交換の場としての月1回の理事会、年3回の会長研修など自主的な組織として活動いただいております。

Q 定額給付金での効果は

A 村内の消費活動に期待



相原 孝彦 議員

Q1 定額給付金の村内での効果は。また、給付に向けた作業手順は。

A1 定額給付金が村内の消費活動に結びつき、景気対策に寄与することを期待しています。



▲定額給付金の申請受付窓口

給付手順は、申請は郵送で、支給は口座振込です。
①対象者を確定し、対象者と金額を示した申請書を送付します。
②世帯主は申請書を確認し、振込先を記入し、通帳と本人確認書類の写しを同封します。
③村は申請書を審査し、振込みデータを作成し、金融機関に依頼します。
速やかな給付を考えますが、件数が多いため、給付まで銀行等が2〜3週間程度、ゆうちょ銀行は少し遅れるものと思われ

無料妊婦健診14回の継続は

Q2 21〜22年の間「妊婦健康診査」の無料健診回数が5回から14回となるが、23年以降も継続するのか。

A2 妊婦健康診査の回数14回程度のうち、20年度の地方財政措置で実施の5回から増える

分の健診料を、22年度まで国と村が折半で補います。
これにより、村は21年度より妊婦健康診査の無料健診を5回から14回に拡充しますが、国の補助金が22年度までであり、23年度以降の無料健診回数は、母体や胎児の健康確保のため積極的に妊婦健診の受診を推奨し、妊娠・出産に係る経済的負担軽減と少子化の解消を目的に、今後2年間の受診状況や財政状況、国の動向等により考えてまいります。

学童保育クラブの移転を

Q3 一本木学童保育クラブの建て替えや移転等今後の展開は。

A3 建物は、かなり老朽化が進んでいると認識しています。また、放課後児童クラブ以外に、役場の書庫として使用しており、施設自体のあり方も含めて検討が必要と考えております。